

ここで、健次郎ははじめて英語を学ぶことになる。先生は、日本で最初の英和辞典をつくつた千村五郎せんむらごろうだつた。

東京にいる会津藩の学生は五十名ほどだつた。戦いに敗れた藩が、学生に与えるお金は少なく、食べ物も、勉強のための道具も不足した。ことに、食べ物
は三食ともごはんが茶わんに一せん、それに、おかずはごま塩だけというあり
さまで、腹いっぱい食べることなど、どうもいできなかつた。食べきかりの健
次郎たちは、いつも空腹をこらえていた。戦争のときでさえこれほどではな
かつた。はき物の下駄げたも、四、五人に一足ぐらいしかなく、外出するときは、交
代たいではいていたのである。

このような苦しみの中でも、学生たちは、真剣に学問に励はげんだ。こうして四
か月ばかりたつたとき、会津藩の武士たちは、斗南となんに移住することになつたの
で、藩の学校がどうとう廃止はいしされることになつた。